発達障害コース,「肢体不自由児の教育課程と指導法」

学生の主体的な学びを引き出す授業づくり

特別支援教育講座・樫木暢子

１．授業の概要

1-1　授業概要

本授業は特別支援学校教員免許状取得に必要な科目であり、肢体不自由児の教育関する制度や教育課程について概説できること、肢体不自由児の子に応じた指導を立案できることを目的とした。そのため、①学習指導要領及び解説の肢体不自由児に関する記述の理解、②肢体不自由児の障害特性を理解した上での具体的な指導方法の理解と習得、③指導案の立案と模擬授業による実践力の育成、④肢体不自由児教育に関わる現代の課題の理解を各授業におけるねらいとした。授業で取り扱った内容は以下のとおりである。

・肢体不自由教育の概説
・肢体不自由の概念と歴史（肢体不自由児施設と教育に関するビデオ）
・特別支援学校（肢体不自由）の教育課程とその編成
・教育課程の編成と自立活動
・自立活動の内容
・教科指導における視覚支援
・訪問教育、院内学級（脳性まひ児の障害特性と支援の実際に関するビデオ）
・身体の動きへの指導、支援（4 号館 1 階プレイセラピールームでの実技）
・コミュニケーションの基本と AAC の活用（教材紹介）
・障害の重い子どもの健康指導
・摂食指導の実技
・医療的ケアの歴史と現状
・肢体不自由児のモデルケースに関する学習指導案立案と模擬授業（KJ 法による討議）
・模擬授業で使用した教材の活用方法を示した教材集の作成及び配布

1-2　授業時間外学習促進の取り組み

授業改善の 3 年目となる今年度はこれまでの成果から表 1 の課題を課した。

２．授業評価方法

2-1　アンケート

無記名による 4 段階のアンケートと記述式のアンケートを行った。アンケートは受講生の成績に一切影響せず、授業に対する自由な回答を保障するため、最終試験終了後、無記名、記述式で行い、その場で回収した。受講生は学部学生 21 名（2 回生 13 名、3 回生 8 名)､大学院特別支援教育コーディネーター専修 6 名（現職教員）で、合計 27 名（受講 28 名）で回答率は 96%だった。

2-2　アンケート結果

表 2 に授業内容でもっと詳しく知りたかった項目を示した。2 回生は模擬授業における授業づくり、実態把握、介助方法等をもっと知りたいと考えており、教育実習の経験が無く、実態に即した指導案を書くことのイメージがもちにくいことが推測される。また、授業づくり及び改善については 3 回生、大学院生の半数が回答しており、授業づくりを経験しているからこそ、もっと専門的な知識を活用して授業をつくりたいと考えていることを示している。

表 1　授業時間外学習の課題

課題	フィードバック
特別支援学校学習指導要領、解説総則編、解説自立活動編の 3 冊について、「肢体不自由」に関する項目に印を付ける	授業内でグループ活動で相互に確認する
模擬授業の指導案作成	模擬授業時にフィードバック
模擬授業に必要な教材・教具等の作成	模擬授業時に教材解釈、改善点等のコメント
他者の指導案の良い点、改善点に関するミニレポート作成	授業検討で使用
模擬授業後の修正指導案作成	返却なし
上記の課題が無い時に適宜ワークシート	評価及びコメントを記入し返却

表 3 に難しかった授業内容を示した。やはり 2 回生の半数以上が模擬授業、指導案づくりについて回答している。これも教育実習経験が影響していると言える。

これらの学習内容に対して、表 4 に受講生が考える授業方法の改善点を示した。紙面の関係で総回答数が 1 以下の項目は割愛している。後期 DP 対応学生認識調査では授業外学習の平均時間が課題については 1.22 時間、自発的な学習については 0.74 時間であったが、時間外学習の内容及び量について、学部生は改善すべきとは考えていなかった。一方で大学院生は内容、量ともに多いと思う学生が約半数であった。コーディネーター専修の院生は特別支援教育教員免許状取得のため、後期は 28 単位履修しており、修論執筆と合わせて、負担が大きいことが推測される。

記述回答では「教科書や学習指導要領はページ指定して読ませてもらいたい」「指導案は最初にいくつかの事例とポイントがあれば書きやすい」「実技・体験はとてもよく分かったのでもっと増やしてほしい」「スライドとプリントが違うことがあった」等の回答を得た。

学習指導案の書き方については最初に例示しているが、実例は示していない。学習効果を高められるよう、前年度までの指導案を例にするなど、工夫していきたい。教科書は実践事例に沿って指導方法の前提となる具体的な理論が書かれているため、授業で使用する場合はページを指定するが、それ以外は授業づくりに必要な内容なので読む箇所を指定する必要はないと考える。学習指導要領も同様であるが、障害別の記述に留意して読む方法を提示している。このようなテキストの読み方については授業の始めに説明しているが、聞き落としがないよう、重ねて伝えていきたい。洲ライトとプリントの整合性については改善していきたい。

３．総括

本授業では授業時間外学習を多用し、授業時間内では模擬授業や体験的な内容を取り入れ、学生の主体的な学びを引き出すことを目指した。授業外学習は前期の担当授業でも同様の内容を行っており、受講生の授業外学習弛緩は平均 2 時間を超えている。このような構成で「教育課程と指導法」を行うことで学生の主体的な学びを引き出しうると言えるだろう。一方で、学部生については十分な時間であると考えるが、コーディネーター専修の院生にとっては負担が大きいことを考慮し、課題量を変えることも検討していきたい。今年度は自作教材集作成を試みた。教員になり授業をする際、模擬授業の指導案等を読み返すことはまずないだろう。特別支援教育において、教材のつくり方、使い方は学習指導の要である。教材作成に興味をもち、情報収集する力を高める一助となることを願っている。

表 2　もっと詳しく知りたい内容（複数回答）

	歴史	教育課程	自立活動	授業づくり 授業改善	実態	介助方法	コミュニケーション	摂食指導	健康管理	医療的ケア
2 年	1	1	3	9	7	5	5	1	2	2
3 年	1	0	3	5	4	2	5	1	1	2
院生	0	0	3	3	1	3	1	3	2	2

表 3　難しかった授業内容（複数回答）

	歴史	教育課程	自立活動	指導案	模擬授業	授業検討	実態	介助方法	コミュニケーション	摂食指導	健康管理	医療的ケア
2 年	2	0	0	7	9	2	0	4	3	1	2	5
3 年	0	1	1	2	1	0	1	2	0	0	1	1

表 4　授業方法の改善点（複数回答）

	話す速さ	スライドの転換	教科書の使用	学習指導要領の使用	模擬授業の時間配分	プリントの作り方	指導案の配布方法	提出方法	時間外学習の内容	時間外学習の量
2 年	1	2	4	2	1	1	1	1	0	0
3 年	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0
院生	1	3	0	1	2	2	1	2	2	3